

ISO 39001認証制度 ご紹介

日本自動車研究所 認証センター

ISO 39001とは?

■ 規格名

ISO 39001:2012 Road Traffic Safety (RTS) management systems-Requirements with guidance for use 道路交通安全(RTS)マネジメントシステム(要求事項及び利用の手引き) 事故リスクを管理して

■ 発行日

2012年10月1日発行

※7回の国際会議を経て発行。日本は第2回マレーシア会議から参加 国土交通省 運輸安全監理官室も委員として参画。

事故を減らす仕組みを構築

■ 規格がなぜ作られたのか?

「全世界から道路交通事故による死亡者及び重傷者を無くす」

- ▶ 防げない重大事故はないが、道路交通において事故は発生してしまう。 だが、事故の影響の大きさは変えられる。
- ▶ あらゆる段階で事故発生のリスクを許容範囲に収め、事故後の被害者への影響を最小にできる準備を整え、死亡・重大事故をゼロにする。



ISO 39001の構造

Check

監視·測定·分析·評価

事故調査

内部監查

マネジメントレビュー

Do

文書化

コミュニケーション

緊急事態対応

運用の計画と管理

認識

力量

資源

調整



Act

不適合·是正処置

継続的改善

Plan

RTS方針

リーダーシップ

組織の役割・責任・権限

組織の状況の理解

利害関係者のニーズ

適用範囲の決定

マネジメントシステムの構築

パフォーマンスファクター

リスクと機会への取り組み

目標及び計画策定



ISO 39001と運輸安全マネジメント

ISO 39001 道路交通安全マネジメントシステム		運輸安全マネジメントガイドライン
4. 現状把握	■内外の課題・利害関係者の要求事項 ■適用範囲の決定及びMS構築	
5. リーダーシップ	■リーダーシップ及びコミットメント■安全方針の策定■役割・責任・権限の付与・明確化	1. 経営トップの責務両制度は親和性が極めて高い
6. 計画	■リスクの特定■RTSパフォーマンスファクターの特定■目標及び詳細目標、実施計画の策定 等	2. 安全方針 (国交省も策定に関与) 3. 安全重点施策 (国交省も策定に関与)
7. 支援 (環境整備)	■連携■資源(人・もの・金・情報)■力量(教育・訓練)■認識(自覚)■文書化された情報■コミュニケーション	4. 安全統括管理者の責務5. 要員の責任・権限6. 情報伝達及びコミュニケーションの確保7. 事故、ヒヤリハット情報等の収集・活用8. 重大な事故等への対応9. 関係法令等の遵守の確保
8. 実施	■リスク対応に必要なプロセスの決定 ・計画・実行・管理 ■事故発生時の対応	10. 安全管理体制の構築・改善に必要な教育・訓練等 13. 文書の作成及び管理 14. 記録の作成及び維持
9. 結果評価	■事故及びヒヤリ・ハット等の調査■内部監査(順守評価)■マネジメントレビュー(見直し)	11. 内部監査
10. 見直し	■不適合、是正処置 ■継続的改善	12. マネジメントレビュー と継続的改善



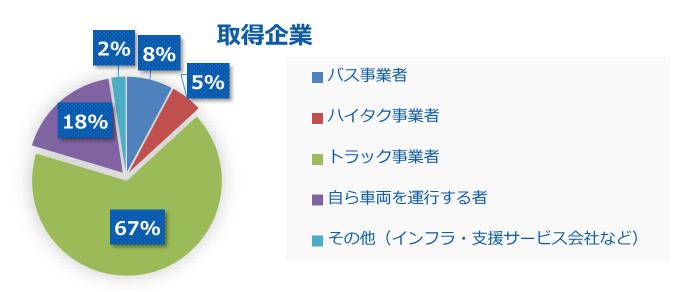
ISO 39001で安マネに取り組む!

- どちらもPDCAサイクルを活用した交通事故の削減と未然防止をねらいとする 課題解決の手段であり、内容も共通するところが多い。
- **安マネは、国内法制度に基づくもの**で、その運用は全運送事業者が対象。 (ただし、評価の対象となるのは一部の事業者のみで、評価対象事業者以外の 組織の要求項目は限定的)
- 平成25年10月1日から、貸切バス事業者は、運輸安全マネジメントの実施が義務付け。平成30年4月1日より、200両以上の車両を保有する運送事業者に義務付け対象が拡大。安全マネ体制構築の必要性が高まっている。
- ISO 39001は運輸安全マネジメントと大変親和性が高く、より<u>積極的なリスクマネジメントのアプローチ</u>により、**事故防止、損害保険料等の削減効果が期待できる**認証制度。
- ISOと安全マネジメントは別物という声もあるが、法が求める安全管理規程と ISO取得に必要となる文書を同一のものとして管理すれば、より実効性の高い 統合マネジメントシステムの構築が可能。
- もし現在、運輸安全マネジメント制度に従い、適切な運用を行っていれば、比較的容易にISO 39001体制構築が可能。



業態別ISO 39001認証実績

業態	取得企業 (2021/12/1)
怎大車無本	133社
運送事業者	(バス:13、ハイタク:9、トラック:111)
自ら車両を運行する者	30社
(運送事業者以外)	(損保,自動車リース ,商社,産廃など)
スの他の学収立等に眼点する光	4社
その他の道路交通に関係する企業	(道路管理会社,運行支援サービス会社など)
合計	167社





出所: NASVAより提供

(ご参考) ISO 39001取得事業者の声

Q. ISOを取得してみて良かった点はなんでしょうか?

成果① 事故削減効果

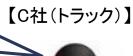
導入後、<u>有責事故件数が2割程度減少</u>し、 自動車保険料も1割程度減少しました。



導入した年の重大事故は0件で、 前年度より事故件数も12件減少しました。



過去、100件あった事故がISO 39001の導入初年は40件前後になり約6割の事故削減効果がありました。事故削減によって、浮いた事故賠償・修繕費用は、ドライブレコーダー導入など、さらなる安全への投資に活用することができました。







出所:NASVAより提供

(ご参考) ISO 39001取得事業者の声

Q. ISOを取得してみて良かった点はなんでしょうか?

成果② 安全意識向上

何と言っても<u>社員の意識が向上した点</u>でしょう。 例えば、最初は無理矢理始めた小集団ミーティングが、 最近は自主的に行われ始めています。 【A社(バス)】

【B社(ハイタク)】

乗務員が<u>ヒヤリハットの提出等、積極的に取り組む</u>ようになり、月次のミーティングでも<u>安全に対する発言が増えました</u>。

成果③

成来(9) コンプライアンス 向上

ISO認証取得企業というブランドは

<u>他社との有力な差別化</u>の戦略になると考えています。

会社が安全・コンプライアンスに力を入れているので、

<u>社員から「安心して勤められる」との声</u>が出ている。

【C社(トラック)】



出所:NASVAより提供

ISO 39001認証によるメリット

貨物自動車運送事業安全性評価事業(Gマーク制度)の加点



働きやすい職場認証制度における加点



貸切バス事業者安全性評価認定制度における「安全マネ取組」への対応

すべての企業

SDGs 持続可能な開発目標 に対応可能

- ・企業価値の向上
- ・ビジネスチャンスにつながる
- ・採用力強化
- ・将来のビジネスリスク回避

SUSTAINABLE GOALS































SDGs(持続可能な開発目標)について

SUSTAINABLE GOALS DEVELOPMENT GOALS





































SDGs とは? 2015年の国連サミットで採択された「Sustainable Development Goals」(持続可能な開発目標)の略称で、2030年までの国際目標です。経済・社会・環境の3つの側面のバランスが取れた社会を目指して、17のゴール(目標)と、ゴールごとに設定された169のターゲットから構成されています。



SDGsとISO 39001 (RTSMS) の結びつき

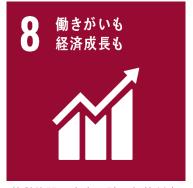
M の 対 応



ドライバーの健康管理の充実な ど、事故防止につながるあらゆ る取組み



ドライバーへの定期教育の実施 など



休憩施設の充実、計画年休制度 や福利厚生制度の充実など職員 が働きやすい環境整備など



運転前確認(点呼)、飲酒、 運行経路、健康管理、事故・ ヒヤリハット情報の適正管理 に向けた運行管理システムの IT化



関係機関と連携した交通安全 運動、緊急事態対応訓練の実 施。地域ハザードマップの作 製・提供など



環境と安全に配慮した新型車両 の導入、エコドライブの励行な ど



ISO 39001認証のために取り組むこと

1. 安全活動ルールの策定(整理と見直し)

- ·ISO 39001の要求内容の勉強
- ・マニュアル(≒安全管理規定)を作る
- ・記録様式の整理(新規作成もあり)

2. ルール通りに運用

- ・計画(目標と取組計画)を作って
- ・実施して
- ・内部監査等で実施状況を確認し
- ・見直し、改善をする

3. 審査を受ける

- ・マニュアル+記録+皆さんの理解
 - 審査≠監査、審査≒安マネ評価

安全マネジメントに取り組む会社の一例(計画)

●会社の目標と取組計画

輸送の安全に関する目標

【事故件数】

人身事故:0件

物損事故:10件

健康起因事故: 0件

飲酒運転:0件

なぜ、この取組なのか、目標達成できるのか不明確

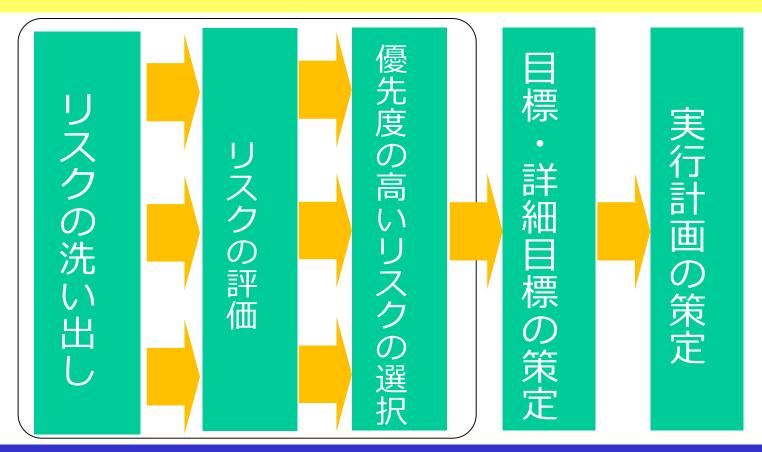
輸送の安全に関する計画(例)

- (1) 運輸安全マネジメント会議の開催
- (2) 乗務員教育計画
- (3) 運行管理者の教育と育成
- (4) 運転記録証明の取得
- (5) 4カメラ常時記録ドラレコー体型デジタコの導入
- (6) ヒヤリハット情報事例集の発行
- (7) 点呼場への大型テレビの設置
- (8)脳MRI検診の実施



ISO 39001の特徴(積極的リスクマネジメント)

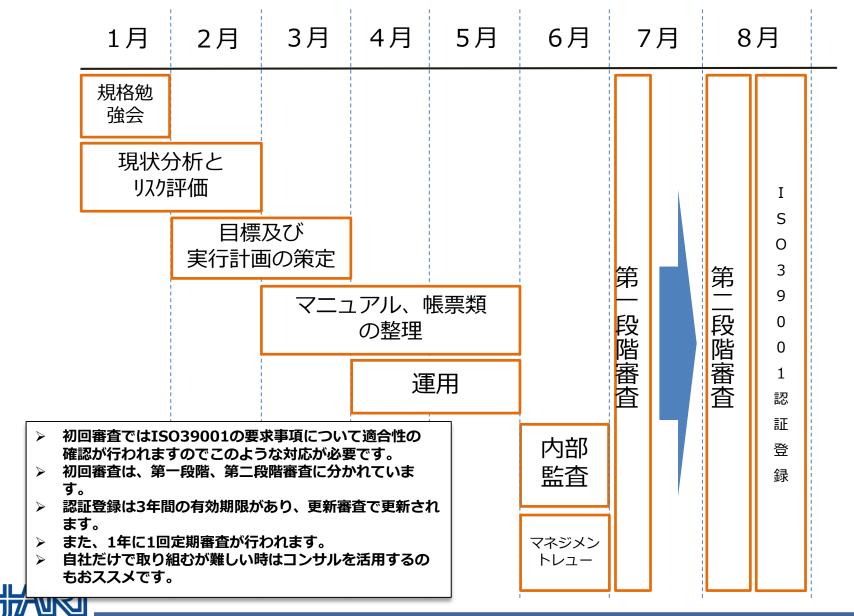
目標達成に結びつく計画を作る



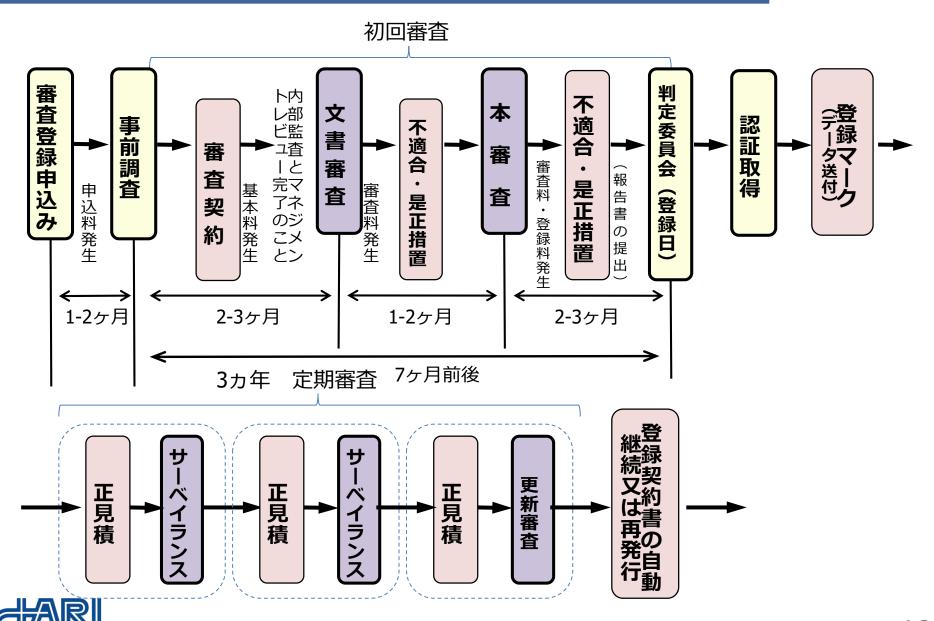
RTSパ。フォーマンスファクターの活用



ISO 39001認証取得までの一例



JARI-RB審査の流れ





- JARI-RBと御社の事故防止活動を 一歩先に進めてませんか?
- ■まずは、お悩みをお聞かせください。